

特別報告

保健師の基盤となる価値・規範と中核となる能力の深化： 公衆衛生看護のあり方に関する委員会活動報告

ヒラノ ミチ ヨ 平野美千代*
イワモト 岩本 萌^{2*}
サトウ 佐藤 美樹^{3*}
マエダ 前田 香^{4*}
シン ケ シンズカ^{5*} カゲヤマ マサ コ オオモリ ジュン コ オカモト レイ コ
新家 静 蔭山 正子^{6*} 大森 純子^{7*} 岡本 玲子^{6*}
ソ ネ トモフミ
曾根 智史^{3*}

目的 2023年度，公衆衛生看護の教育と実践の共通指針となる，コアバリュー（保健師という専門職の基盤となる保健師の価値・規範）とコアコンピテンシー（保健師の中核となる考え方や姿勢，行動特性を含む能力）について，日本保健師連絡協議会6団体の協力体制により合意形成に基づく明確化がなされた。その普及のため，日本公衆衛生学会公衆衛生看護のあり方に関する委員会では，オンラインセミナー2回および第83回日本公衆衛生学会総会にてシンポジウムを開催した。本稿では，第2回オンラインセミナーおよびシンポジウムで共有された知見や議論をもとに，保健師のコアバリューとコアコンピテンシーの意義と活用可能性について考察する。

方法 オンラインセミナーと総会シンポジウムを実施した。

活動内容 オンラインセミナーでは，ライブ配信に100人が参加し，オンデマンドでの視聴回数は1,725回に達した。保健師のコアバリューとコアコンピテンシーの解説後，行政と産業の事例からそれぞれ保健師のコアを活かした取り組みが紹介された。参加者間で「大事にしたいコア」について共有した。総会シンポジウムでは，「国内外の公衆衛生看護の教育と実践における保健師のコアの枠組み」「保健師のコアバリューとコアコンピテンシー」「コアバリューとコアコンピテンシーの保健師基礎教育への活用」「保健師活動の土台をなすコアバリュー・コアコンピテンシーと実践」について講演がなされ，講演後，意見交換を行った。

結論 保健師のコアバリューとコアコンピテンシーが，日本の保健師の実践と教育の共通指針となる概念といえることが共有された。また，これからの保健師には，地域住民の健康課題に対応することに加え，社会の変化に適応しながら自らを進化・深化させていく姿勢が求められる。今後は関連団体と協働し，これらの概念の普及と活用が進められ，保健師が社会の変化に適応しながら専門性を発展させることが期待される。

Key words：保健師，コアバリュー，コアコンピテンシー

日本公衆衛生雑誌 2025; 72(9): 626-632. doi:10.11236/jph.25-020

I はじめに

現在，保健師には地域住民の健康維持・増進に向けた支援に加え，健康格差への対応，新たな健康リスクへの取り組み等，多様で複雑化するニーズに応えることが求められている。岡本らは，保健師という専門職の基盤となる保健師の価値・規範を「コアバリュー」，保健師の中核となる考え方や姿勢，行動特性を含む能力を「コアコンピテンシー」として，それらを明確化することの重要性を述べている¹⁾。

2023年度，公衆衛生看護の教育と実践の共通指針

* 札幌医科大学
2* 東北大学大学院
3* 国立保健医療科学院
4* 福島県保健福祉部健康づくり推進課
5* 高槻市子ども未来部
6* 大阪大学大学院
7* 聖路加国際大学大学院
責任著者連絡先：〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目
札幌医科大学保健医療学部看護学科 平野美千代
E-mail: hirano-m@sapmed.ac.jp

となる、コアバリューとコアコンピテンシーについて、日本保健師連絡協議会6団体（全国保健師長会、全国保健師教育機関協議会、日本公衆衛生看護学会、日本産業保健師会、日本看護協会、日本保健師活動研究会）の協力体制により、合意形成に基づく明確化がなされ、2024年度に渡り、活用に向けた普及がなされている¹⁻⁸⁾。その一環として、日本公衆衛生学会公衆衛生看護のあり方に関する委員会では、第83回日本公衆衛生学会総会にてシンポジウム「深化する保健師の価値観と能力のコアを確認する」を開催した⁹⁾。シンポジウムに先立ち、保健師の基盤となる価値・規範となる根源的な考え方と中核となる能力に関する基礎知識の普及を図るオンラインセミナーを2回開催した。

本稿では、第2回オンラインセミナーおよびシンポジウムで共有された知見や議論をもとに、保健師のコアバリューとコアコンピテンシーの意義と活用可能性について考察する。

Ⅱ 方 法

オンラインセミナーと総会シンポジウムを実施した。

1. オンラインセミナー

2024年9月3日火曜日18:00～20:00にオンラインセミナー「保健師の進化・深化・真価を導く保健師のコア★実践例で確認しよう！」を開催した。日本公衆衛生学会公衆衛生看護のあり方に関する委員会、日本産業衛生学会産業保健看護部会、日本公衆衛生看護学会保健師の未来を拓くプロジェクト担当による、保健師関連3学会の共同企画として実施した。広報活動は3学会の会員メーリングリストを通じて行い、ライブ配信への参加、オンデマンド配信の視聴、資料ダウンロードについて周知を図った。

2. 総会シンポジウム

2024年10月30日水曜日13:40～15:15に、第83回日本公衆衛生学会総会にてシンポジウムを開催した。シンポジウムでは、国内外の公衆衛生看護の教育と実践のコアの枠組み、保健師関連団体における合意形成のプロセスと最新の動向、コアバリューとコアコンピテンシーの教育や実践の場での活用について講演が行われた。講演後、ディスカッションを通じ、我が国における公衆衛生看護の最新のコアバリュー、コアコンピテンシーの理解を深め、保健師の教育や活動への応用について考察した。

Ⅲ 活 動 内 容

1. オンラインセミナー

ライブ配信の参加者は100人、10月27日まで公開

したオンデマンドの視聴回数は、1,725回であった。

1) 保健師のコアバリュー・コアコンピテンシーとは？ 岡本玲子氏（大阪大学）

保健師のコアを作成することになった背景、デルファイ調査^{1,2)}によるコアバリュー・コアコンピテンシーの開発プロセス、デルファイ調査によってコンセンサスを得たコアに関する妥当性の検討、3つのコアバリューと8つのコアコンピテンシーの項目と定義、主要な用語の定義、今後の活用と周知に関する示唆についてデータを根拠に解説された。

2) 実践例で確認しよう！（事例紹介とコアの読み解き）

行政より：仙田寿子氏（大阪市）、岸 恵美子氏（東邦大学）

産業より：住徳松子氏（アサヒプロマネジメント株式会社）、五十嵐千代氏（東京工科大学）

行政からは、政令市における百歳体操の更なる充実にに向けた取り組み事例が紹介された。地域のデータを基に事業の強みと課題を整理し、新たな企画として地元の関係機関や企業の協力による認知症予防講座を組み込み、各地区の住民リーダーと百歳体操グループ代表と協働で展開した既存事業の質向上と地域連携を同時にねらった継続拡充型PDCAの実践例が説明された。

産業からは、グループ企業の健康経営の観点から女性の健康課題の解決に向けた取り組み事例が紹介された。これまでの女性のヘルスリテラシー向上の施策と成果の整理を基に、外部リソースを導入した女性に特化した新事業を立ち上げ、グループ企業各社の担当者と協働で組織全体に新たな施策を展開させた、組織変容をねらった現場密着型PDCAの実践例が説明された。

事例の読み解きでは、それぞれの実践例の紹介後、時系列や組織構造のフレームを用い、活動のプロセスや意味内容を整理した上で、事例にみる保健師のコアバリューとコアコンピテンシーが抽出された。行政と産業の2事例いずれから、多角的なアセスメントに基づき、地域の資源や関連組織との協働を通じてスパイラルアップ、スケールアップさせていく事業と施策の展開にみる保健師コアの確認がなされた。

3) 交流セッション

オンライン上で小グループに分かれ、自分が大切にしている保健師のコアを語り合う時間と場を設けた。その後、各グループから語り合った内容を発表し、参加者全体での共有を図った。

交流セッションで「大事にしたいコア」について語り合った後の発表とチャットへの書き込みの主な

内容は以下の6点であった。

- (1) 産業も行政も同じコアバリューとコアコンピテンシーを持っていることが確認できた。
- (2) 大事にしている「熱意」は「プロフェッショナルとしての自律と責任」のもとで根付いていると思った。
- (3) 現場では「合意と解決を導くコミュニケーション」を日々大事に活動していることを確認できた。
- (4) 企業理念や健康課題に基づく産業保健の事例は、行政で新規事業を計画する際に役立つと思い、勉強になった。
- (5) 個から集団、集団から地域へと、ポピュレーションベースで物事を考えること、ビジョンを持ってマネジメントすることが大事と再確認できた。
- (6) 基礎教育、現任教育を通してコンピテンシーを高めていくことが重要と改めて認識した。

2. 総会シンポジウム

1) 演者による講演

(1) 進化する国内外の公衆衛生看護の教育と実践における保健師のコアの枠組み⁹⁾

佐藤美樹氏（国立保健医療科学院）

公衆衛生看護は、社会のニーズや政策の動向に密接に結びつき、公衆衛生の基盤として発展してきた。保健師は人々の健康と安寧を実現するための重要な役割を担い続けている。しかし、近年では、新興感染症や災害の発生、社会経済的要因による健康格差の拡大等、複雑化する公衆衛生課題への対応が求められている。このような状況において、公衆衛生看護の実践を支える「コア」の枠組みを明確化し、言語化することの重要性が増している。

① 教育における枠組みの比較

日本では看護教育および医学教育のモデル・コア・カリキュラム（文部科学省、全国保健師教育機関協議会）において、「プロフェッショナルリズム」「生涯学習能力・姿勢」「情報・科学技術を活用する能力」等、基本的な資質・能力が示されている。一方、英国の保健師（Specialist Community Public Health Nurse : SCPHN）の教育における専門能力基準（2022年改訂）では、「自律した SCPHN 実践」や「SCPHN 実践の変革」等6つの能力基準が明示されており、日本の枠組みと対応する部分もあった。さらに、英国では専門能力基準や指標の開発・改訂が行われ、持続可能な質保証体制が構築されていることが特徴である。教育に関しては、「プロフェッショナルとしての自立と責任」「科学的探求と情報科学技術の活用」が重視され、さらなる能力

獲得を目的とした教育プログラムの設計が進んでいる。このような取り組みは、保健師教育における能力基準の体系化と実践への活用の可能性を示唆している。

② 実践における枠組みの比較

日本では自治体保健師の標準的なキャリアラダー（厚生労働省、2016年）において、個人、家族、集団への「対人支援活動」や「地域支援活動」を通じて地域ケアシステムを構築することが示され、保健活動の機能や実践が体系的に整理されている。米国の公衆衛生看護のコンピテンシー（Community/Public Health Nursing Competencies）では、8つのドメインとキャリアステージ別の3つの職階に分類され、初級レベルから上級管理職までの保健師が使用できるように設計されている。日本の枠組みとの比較では、「情報収集/アセスメント能力」「コミュニケーション能力」など、日本の能力指標には明示されていない能力が言語化されている点の特徴である。また、カナダでは、地域看護専門家実践モデルが構築されており、エビデンスに基づいた基準づくりが進められている。このような取り組みは、公衆衛生看護の実践を支える枠組みの透明性と適用可能性を高める一助となっている。

③ 教育実践への活用

諸外国では教育および実践の枠組みが具体的かつ明確に示され、持続可能な質保証体制が整備されている。とくに英国のように能力基準の改訂を行い、先を見据えた教育プロセスは、我が国の保健師教育にも大きな示唆を与える。また、米国では能力を言語化し、各階層別に熟練度を定義している点の特徴である。これにより基礎教育から現任教育に至るまで、継続的な教育プロセスを構築する必要性が浮き彫りになった。カナダでは、地域看護の実践モデルに基づき、保健師の専門性を明確にしつつ、実践者がエビデンスに基づいた基準を達成できる仕組みが整備されている。これらの取り組みは、公衆衛生看護の教育と実践の両方をより体系的に進化させるための重要な手がかりを提供している。

(2) 保健師のコアバリューとコアコンピテンシー：保健師関連団体の合意形成に基づく明確化^{1~9)}

岡本玲子氏（大阪大学）

保健師関連団体は、それぞれ公衆衛生の向上をめざして取り組んでいる。しかし、様々な公的な場面で「それは保健師全体の総意ですか」と問われた際に、はい、と答えられる共同の成果を創出できていない。この保健師の上流の課題を解決するために、実践・教育・研究に関わる3団体（全国保健師長

会・全国保健師教育機関協議会・日本公衆衛生看護学会)は、2023年度から2年間の合同事業として、保健師の未来を拓くプロジェクトを開始した。

① プロジェクトの背景

保健師は名称独占の国家資格として社会的信頼を確保し続ける責任がある。保健師関連団体は、保健師のコアバリューとコアコンピテンシーを明確化し、社会に対してその価値を示す取り組みを開始した。この活動は、日本保健師連絡協議会6団体の協力体制のもと、デルファイ調査を用いて進められた。

② デルファイ調査による明確化のプロセス

デルファイ調査は専門家パネルに対する意見聴取を複数回実施し、合意形成を図る方法である。本プロジェクトでは、協議会の各団体から推薦を受けた534人の専門家パネルを対象に、3ラウンドの調査を実施した。その結果、すべての項目で80%以上の強固な合意を得ることができた。

③ 明確化されたコアバリューとコアコンピテンシー

保健師のコアバリューは「健康の社会的公正」「人権と自律」「健康と安全」で構成された。コアコンピテンシーは「プロフェッショナルとしての自律と責任」「科学的探究と情報・科学技術の活用」「ポピュレーションベースのアセスメントと分析」「健康増進・予防活動の実践」「公衆衛生を向上するシステムの構築」「健康なコミュニティづくりのマネジメント」「人々/コミュニティを中心とする協働と連携」「合意と解決を導くコミュニケーション」で構成された。これらのコアは、国内外の保健師教育や実践の枠組みと整合していることが確認された。

④ 今後の方向性

明確化されたコアバリューとコアコンピテンシーは、保健師の教育の枠組みや活動の指針に反映されることが期待される。また、関連団体との協力を通じて普及と定着を図り、定期的な更新を行うことで、保健師の専門性の更なる向上を目指していくことが重要である。

(3) コアバリューとコアコンピテンシーの保健師基礎教育への活用⁹⁾

臺 有桂氏(神奈川県立保健福祉大学)

保健師基礎教育において、コアバリューとコアコンピテンシーをどのように活用するかは、その教育の質と効果を左右する重要な要素である。これらの明確化は、教育内容の標準化や専門性の強化に寄与するだけでなく、保健師という職業の魅力を高め、社会的認知度を向上させることにもつながる。保健

師基礎教育におけるコアバリューとコアコンピテンシーの意義、その活用方法について検討する。

① コンピテンシー・ベースの教育への転換

コンピテンシーとは、知識、スキル、態度・価値観を統合し、実践可能な形で発揮される能力を指す概念であり、近年の教育改革の中核となっている。日本においても、中央教育審議会の答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(2018)において、“何を教えるか”から“何ができるようになるか”への転換が提唱された。この流れを受け、医学、歯学、薬学に続き、看護師基礎教育においてもコンピテンシー基盤型教育への転換が進められている。

② 公衆衛生看護学モデル・コア・カリキュラムの改訂

保健師基礎教育では、2022年度入学生から新カリキュラムが導入され、「地域・在宅看護論」の創設や位置づけの変更が行われた。これにより看護師と保健師の役割や機能がますます隣接し、その境界が曖昧になりつつある。このような状況下で保健師のコアバリューとコアコンピテンシーを明確化することは、職種特有の本質や目指すべき姿を具現化し、教育目標の明瞭化に貢献するものである。

全国保健師教育機関協議会は、保健師基礎教育の基盤として「公衆衛生看護学モデル・コア・カリキュラム(2017)」を公表した。パンデミックや災害、関連法や制度改正等の社会の変容に伴い、保健師の役割や機能の変化が求められる中で、このカリキュラムの改訂が必要となっている。今回の改訂では、「コアバリューとコアコンピテンシーの明確化に基づく教育内容の更新」「保健師基礎教育と現任教育の連動を図る仕組みの構築」「学生の主体的な学びを促進し、保健師としてのアイデンティティを育む教育の実現」等が重視されている。

③ コアバリューとコアコンピテンシーの活用の意義

コアバリューとコアコンピテンシーを基盤とした教育には、「教育内容の標準化」「学生の理解の促進」「キャリア形成の促進」「社会の認知度の向上」の観点で意義がある。教育内容の標準化では、コアバリューとコアコンピテンシーに基づき押さえるべき教育内容を示すことで教育の質を担保できる。学生の理解の促進では、学生が保健師の専門性や目指すべき姿を理解しやすくなり、主体的な学びを促進する。これにより保健師としてのアイデンティティや職業意識が醸成され、専門職としての誇りにつながる。キャリア形成の促進では、コアバリューとコアコンピテンシーが教育の共通基盤として機能する

ことで、看護教育と現任教育を一貫してつなげる役割を果たし、人材育成とキャリア開発を促進する。社会的認知度の向上では、保健師の専門性が社会に明確に伝わることで、保健師という職業の魅力が向上し、人材確保にも寄与する。

(4) 保健師活動の土台をなすコアバリュー・コアコンピテンシーと実践⁹⁾

前田 香氏（福島県保健福祉部健康づくり推進課）

自治体保健師は地域保健法、地域保健対策の推進に関する基本的指針、地域における保健師の保健活動について（以下、指針）等に基づき、地域住民の健康保持・増進を目的とした活動を展開している。指針には、保健師が所属組織を問わず取り組むべき方向性として10項目が示されており、これらは保健師のコアバリュー（価値観）とコアコンピテンシー（基礎能力）を基盤とするものである。

① 実践例からみるコアバリューとコアコンピテンシーの応用

指針の項目の一つである「個別課題から地域課題への視点及び活動の展開」を例に挙げると、ひきこもり状態の家族支援活動がある。個別の相談支援を通じて得られた情報をもとに、関係者と連携して家族グループを立ち上げ、さらには居場所づくりや地域全体での支援策を施策化した。この過程では、「ポピュレーションベースのアセスメントと分析」「公衆衛生を向上するシステムの構築」「合意と解決を導くコミュニケーション」といったコアコンピテンシーが駆使されている。

また、新型コロナウイルス感染症対応においては、感染拡大防止のための疫学調査やクラスター対策、多職種・多機関との連携が行われた。同時に、地域住民の健康課題にも対応し、ストレスや生活習慣の乱れによる健康被害を予防する取り組みも行った。これらの実践では、「科学的探究と情報・技術の活用」「健康増進・予防活動の実践」「健康なコミュニティづくりのマネジメント」といったコアコンピテンシーが発揮されている。

② 自治体保健師の標準的なキャリアラダーとコアバリュー、コアコンピテンシーの意義

保健師活動の基盤であるコアバリューには、「健康の社会的公正」「人権と自律」「健康と安全」が含まれる。これらは自治体保健師の標準的なキャリアラダーにも反映されており、人材育成の礎として重要な位置を占めている。とくに小規模自治体では教育マニュアルやキャリアラダーが整備されていないケースが多く、コアバリューやコアコンピテンシーを活用することで人材育成を効果的に推進できる。

③ 創造的な保健活動の推進と今後の展望

少子高齢化や人口減少が進むなか、2040年以降の社会構造の変化を見据えた保健師の役割等の整理が必要であり、厚生労働省による地域における保健師の保健活動に関する指針の進捗評価では、地域に軸足を置いた取り組みが低調であるとの課題が示された。これを踏まえ保健師は積極的に地域に出向き、多職種・多機関との協働・連携による、地域の実態に即した施策を展開する必要がある。コアバリューとコアコンピテンシーを基盤とした活動は、時代の要請に応えるものであり、保健師が社会的信頼を確保し続ける鍵となる。これからも、保健師としての役割を果たし続ける努力が求められている。

2) 意見交換

意見交換では講演内容をもとに保健師のコアバリューとコアコンピテンシーについて議論が交わされた。一点目は、「プロフェッショナルな保健師」とは何かについての考察である。共通して挙げられたのは、時代の変化に適応しながらも保健師としての信念と責任感を持って、ぶれずに行動できる、ということであった。また、地域住民や多職種との協働・連携を通じて、社会の多様な課題に対応する柔軟性が重要であるとされた。これには保健師自身が主体的に学び続ける姿勢が不可欠であるとの意見が強調された。二点目は、コアバリュー、コアコンピテンシーの明確化が、保健師の専門性の可視化にどのように寄与するのかについての議論であった。コアバリュー、コアコンピテンシーは、保健師自身が自らの役割を再認識することに加え、住民や関係機関に効果的に伝えることも可能にする。この明確化が、保健師の価値と活動の意義を住民等にも実感してもらう一助となることが期待された。三点目は、コアバリューやコアコンピテンシーを学生や新人保健師にどのように浸透させるかが議論された。その方法としてナラティブベースの教材の活用や、現場での体験を基にしたリフレクションの導入等が提案された。これらの取り組みは、知識や技術に加え、保健師の価値観や判断力が深まる教育を可能にするとの見解が示された。四点目は、保健師育成における職場環境の重要性が指摘された。職場の心理的な安全性を確保し、互いの成果を認め合う文化を醸成することが、若手保健師の満足度や成長を促進する要因となるとの意見が共有された。さらに、職場内でのリフレクティブ・プラクティスや、日常的な振り返りの場を設けることの重要性が共有された。

Ⅳ 考 察

オンラインセミナーでは、参加者数と視聴回数よ

り保健師のコアバリューとコアコンピテンシーへの関心の高さが窺われた。保健師のコアに関する解説と実践例の理解から、参加者自身の活動に結び付けて意見交換することができた。行政と産業における公衆衛生看護の事例と読み解き、および交流セッションとチャットの書き込み内容より、領域を問わず、コアバリューとコアコンピテンシーを用いることで、活動の特長および専門性について説明可能であることが確認できた。このことから、人材育成に適応することで、すべての活動の根幹を成す価値規範に基づく能力開発と専門性の発展を可能にすると考える。現任教育および基礎教育における組織的な活用と個人的な活用により、保健師の基盤、中核となる価値観と能力の共通理解を促進できると予測される。

今後は、人材育成のキャリアラダーに盛り込む、研修や実習、演習目標に組み込む、事例検討や事業評価の場面で活用する、自己研鑽の枠組みとして活用する等、どのように活用することができるか、各職場で検討し、領域を超えて活用経験を共有することで、普及と定着を促す必要がある。

シンポジウムでは、講演と意見交換を通じて、コアバリューは保健師の社会に対する価値に加え、保健師が社会に必要な専門職であることを明示する概念であることが共有された。また、明確化されたコアバリュー、コアコンピテンシーが、国内外の保健師教育や実践の枠組みと整合していることも確認された。

今回、公衆衛生に携わる多職種が集う総会でのシンポジウムは、保健師の専門性を示す機会となった。実践現場と教育現場の代表者間の意見交換より、コアバリューとコアコンピテンシーは、保健師の行動や意思決定の指針にもなり得ることが示唆された。さらに、保健師の教育目標を明確化し、教育の質向上への貢献も期待できることから、基礎教育と現任教育の連続性を確保した教育展開の可能性が考えられる。常にコアバリュー、コアコンピテンシーを意識して活動できるように、職場内でのリフレクションなど様々な場面で活用できる教材を開発することで、保健師の共通の価値観に基づく能力開発を促進できると予測される。

今後はコアバリューとコアコンピテンシーの概念をもとに、実践や教育の場で具体的にどのように活用につなげていくかが重要となる。また、時代の要請に応じた保健師の進化、深化、真価をどのように成し遂げるかも問われていると考える。

V おわりに

オンラインセミナーでは、今回作成されたコアバリューとコアコンピテンシーは領域を問わず、日本の保健師の実践と教育の共通指針となる価値観と能力を示す概念といえることが共有された。シンポジウムでは、保健師のコアバリューとコアコンピテンシーの明確化は、保健師の専門性を住民や多職種にわかりやすく伝え、社会的な役割を確立するための基盤となることが確認された。

これからの保健師には、地域住民の健康課題に対応することに加え、社会の変化に適応しながら自らを進化・深化させていく姿勢が求められる。今回の取り組みをきっかけに、保健師の専門性のさらなる発展と、それを支える教育、職場環境の整備が進むことを期待したい。保健師の進化、深化、真価を公衆衛生看護内外に示すためには、組織的な努力が必要である。今後は、保健師関連団体との協働・連携によるコアバリュー、コアコンピテンシーの普及と定着が期待される。

本活動において開示すべき COI 状態はない。

(受付 2025. 2.28)
(採用 2025. 4.10)
(J-STAGE 早期公開 2025. 7. 9)

文 献

- 1) 岡本玲子, 岸恵美子, 松本珠実, 他. 保健師のコアバリューとコアコンピテンシー: デルファイ調査. 日本公衆衛生雑誌 2024; 72: 745-755.
- 2) 保健師の未来を拓くプロジェクト. 全国保健師長会・全国保健師教育機関協議会・日本公衆衛生看護学会 2023-2024年度合同事業2023年度報告 第1報, 2023年度の経過と保健師のコアに関するデルファイ調査(中間報告). 日本公衆衛生看護学会誌 2024; 13: 54-57.
- 3) 岡本玲子, 岸恵美子, 松本珠実, 他. 力を合わせて明らかにした私たち保健師のコア. 保健師ジャーナル 2024; 80: 299-305.
- 4) 岩本里織, 麻原きよみ, 岸恵美子, 他. 連載 みんなで活かそう! 私たち保健師のコアバリューとコアコンピテンシー・1「健康の社会的公正」「人権と自律」「健康と安全」. 保健師ジャーナル 2024; 80: 324-332.
- 5) 岡本玲子, 前田 香, 遠藤雅幸, 他. 連載 みんなで活かそう! 私たち保健師のコアバリューとコアコンピテンシー・2「プロフェッショナルとしての自律と責任」「科学的探究と情報・科学技術の活用」. 保健師ジャーナル 2024; 80: 428-434.

- 6) 和泉比佐子, 佐伯和子, 井口 理, 他. 連載 みんなで活かそう! 私たち保健師のコアバリューとコアコンピテンシー・3「ポピュレーションベースのアセスメントと分析」「健康増進・予防活動の実践」. 保健師ジャーナル 2024; 80: 534-540.
- 7) 茂木りほ, 村嶋幸代, 松本珠実, 他. 連載 みんなで活かそう! 私たち保健師のコアバリューとコアコンピテンシー・4「公衆衛生を向上するシステムの構築」「健康なコミュニティづくりのマネジメント」. 保健師ジャーナル 2025; 81: 72-79.
- 8) 松原三智子, 前田 香, 古橋完美, 他. 連載 みんなで活かそう! 私たち保健師のコアバリューとコアコンピテンシー・5「人々/コミュニティを中心とする協働・連携」「合意と解決を導くコミュニケーション」. 保健師ジャーナル 2025; 81: 164-170.
- 9) 佐藤美樹, 岡本玲子, 前田 香, 他. 特集 第83回 日本公衆衛生学会総会<シンポジウム39>「深化する保健師の価値観と能力のコアを確認するー公衆衛生看護のあり方に関する委員会企画ー」. 月刊公衆衛生情報 2025; 54: 3-11.
-